Plaire（プレール）

ご使用前に、この取扱説明書を十分、お読み下さい。
この取扱説明書はお使いになる方が、いつでも見られるところに保管して下さい。

安全にご使用いただくために

このミシンを、安全にご使用していただくために、以下のことがらを守って下さい。
このミシンは、日本国内向け、家庭用です。FOR USE IN JAPAN ONLY

⚠ 警告 感電、火災の恐れがあります

1．一般家庭用交流電源100Vでご使用下さい。
2．以下のような時は、電源スイッチを切り、電源プラグを引き抜いて下さい。
・ミシンのそばを離れるとき
・ミシンを使用したあと
・ミシン使用中に停電したとき

⚠ 注意 感電、火災、けがの原因となります

1．フットコントローラーの上に物を乗せないで下さい。
2．お客様自身での分解、改造はしないで下さい。
3．ミシンの操作時は、ベッドふた、面板などのカバー類を閉じて下さい。
4．ミシンの操作中は、針から目を離さないようにし、針、はずみ車、天びんなどすべての動いている部分に手を近づけないで下さい。
5．曲がった針はご使用にならないで下さい。
6．縫製中に布を無理に引っ張ったり、押したりしないで下さい。
7．お子様がご使用になるときや、お子様の近くでご使用されるときは、特に安全に注意して下さい。
8．以下のことをするときは、電源スイッチを切って下さい。
・針、針板、押え、アタッチメントを交換するとき
・上糸、下糸をセットするとき
・ランプを交換するとき（ランプが冷えてから行って下さい）
・取扱説明書に記載のあるミシンのお手入れを行うとき
9．ミシン、フットコントローラーに以下の異常があるときは、速やかに使用を停止し、お近くの販売店にて点検、修理、調整をお受け下さい。
・正常に作動しないとき
・落下などにより破損したとき
・水に濡れたとき
・電源コード、プラグ類が破損、劣化したとき
・異常な臭い、音がするとき

目　次

- 各部の名まえ…… 2
- おとり扱いについてのお願い…… 3
- 補助テーブルのはずし方、つけ方…… 4
- 小物入れ…… 4
- 押えと付属品…… 5

操作をおぼえましょう

- 電源をつなぎましょう…… 6
- 速度の調節になれましょう…… 7
- 照明ランプ…… 7
- 下糸の準備をしましょう…… 8～10
- 上糸の準備をしましょう……11～12
- 布に適した糸や針を選ぶ目安……13
- 糸調子を合わせましょう……14
- 模様の選び方……15
- 縫い目のあらさの調節……15
- 直線縫い……16～17
  - ★　縫いはじめ……16
  - ★　縫い方向をかえるには……16
  - ★　縫いおわり……17
- ドロップレバーの使い方……17
- 押え圧ダイヤル……17
- 押えのとりかえ……18
- 針のとりかえ……19

実用縫いいろいろ

- ジグザグ縫い……20
- ジグザグ縫い裁ち目かがり……20
- かがり縫いステッチ……21
- トリコット縫い裁ち目かがり……21
- 直線三重縫い……22
- くけ縫い(まつり縫い)……23
- ボタン穴かがり(ボタンホール)……24～25
- 芯入りボタン穴かがり……26
- ボタンつけ……27
- ファスナーつけ……28～30
- 三つ巻き縫い……30～31

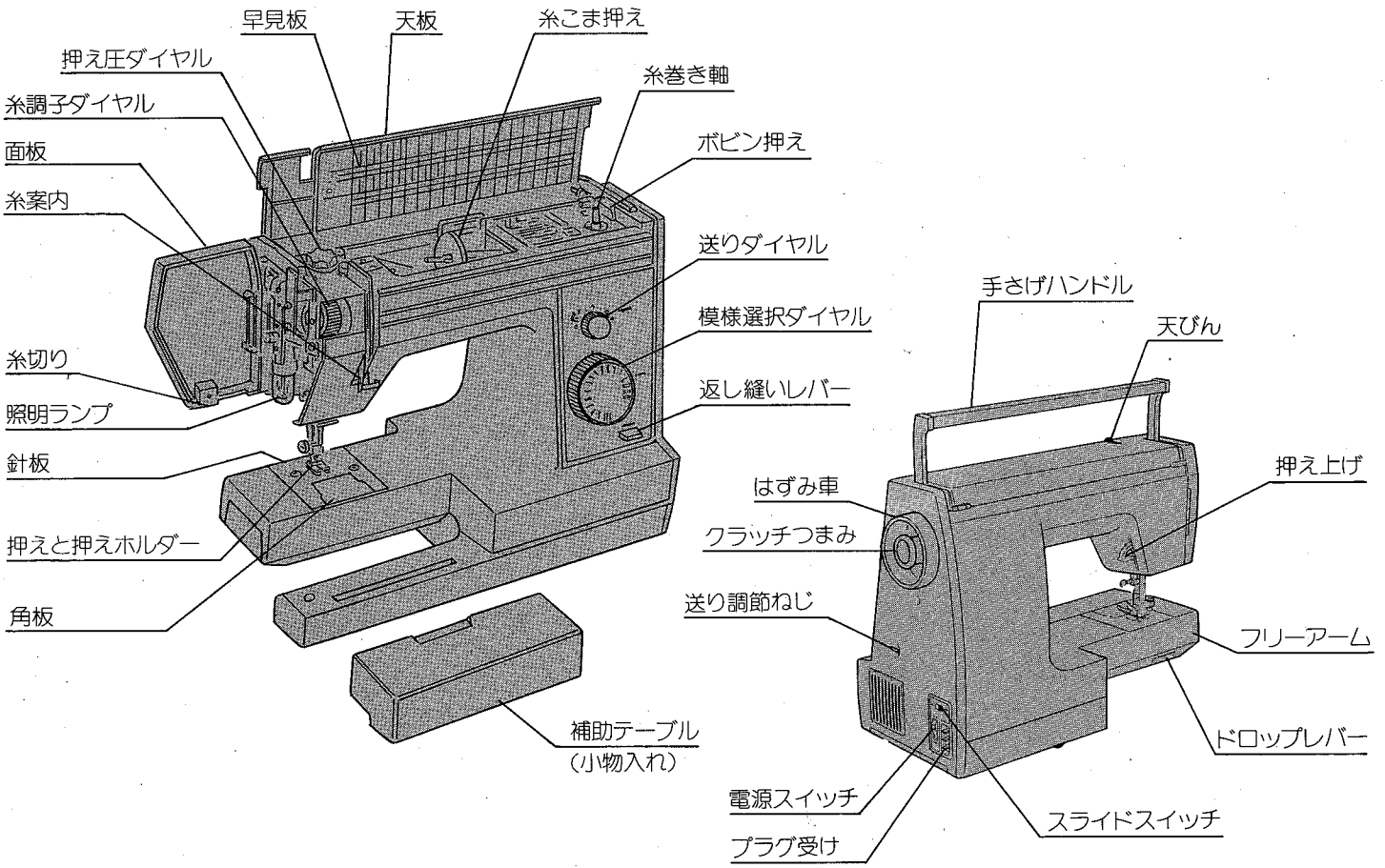
応用縫いいろいろ

- スーパー模様縫い……32
- スーパー模様の形の整え方……32
- キルティング……33
- ピンタック……34
- アップリケ……35
- パッチワーク……35
- シェルタック……36
- スモッキング……36

ミシンの手入れと調整

- かまの掃除……37
- かまの分解……38
- かまと送り歯の掃除……38
- かまの組立……39
- 電球のとりかえ……39
- ミシンの調子が悪いときの直し方……40～42
- 送りジョーズの使い方……43

●各部の名まえ


早見板
天板
糸こま押え
押え圧ダイヤル
糸巻き軸
糸調子ダイヤル
ボビン押え
面板
糸案内
送りダイヤル
模様選択ダイヤル
糸切り
返し縫いレバー
照明ランプ
針板
押えと押えホルダー
角板
補助テーブル
(小物入れ)
手さげハンドル
天びん
はずみ車
押え上げ
クラッチつまみ
送り調節ねじ
フリーアーム
ドロップレバー
電源スイッチ
スライドスイッチ
プラグ受け

●おとり扱いについてのお願い

★より安全のために……

①ミシンを動かしているとき、**針から目をはなさないように**注意し、はずみ車、天びん、針などに手を触れないでください。

②つぎのようなときは、**必ず電源スイッチを切り、コンセントから電源プラグを抜いてください。**

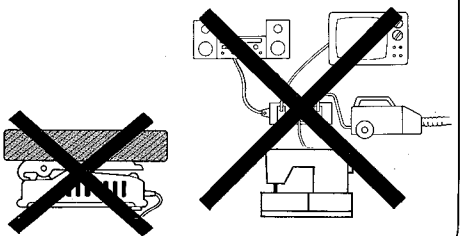
■使用後　■ミシンのそばをはなれるとき

■部品をつけたり、はずしたりするとき

■ミシンの手入れをするとき

③コントローラーの上には、物をのせないでください。

④たこ足配線は、危険ですからやめましょう。



★ご使用の前に……

①ほこりや油などで布を汚さないように、使う前にミシンをよくふいてください。

②ミシンのセットや、押え、針を交換するときには、この《使い方の手びき》を見て、正しく、確実にセットしてください。

③ミシンをセットしたら、実際に縫うものと同じ布や糸で試し縫いをしてみましょう。

★いつまでもご愛用いただくために……

①長時間日光にあてたり、ストーブのそばに置いたりしないでください。

②湿気の多いところはさけてください。

③落としたり、ぶつけるなど衝撃を与えないでください。

●修理、調整についてのご案内

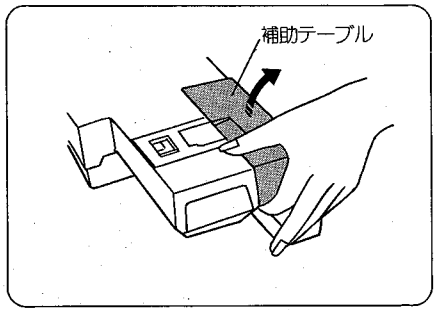
万一不調になったり、故障を生じたときは、「ミシンの調子が悪いときの直し方」(40~42ページ)により点検・調整を行なってください。それでも調子が悪いときは、お買い上げいただいた支店、または近くの支店へご連絡ください。

●このミシンは、日本国内用に作られていますので、外国では使用できません。

(This sewing machine can not be used in foreign country as designed for Japan only.)

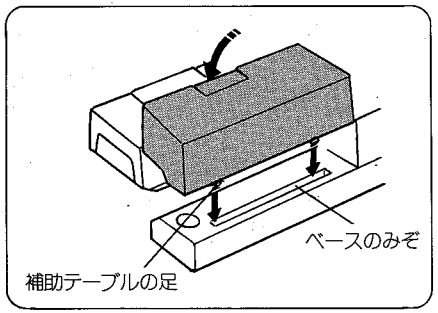
仕様及び外観は改良のため予告なく変更することがありますのでご了承下さい。

●補助テーブルのはずし方、つけ方



《はずし方》

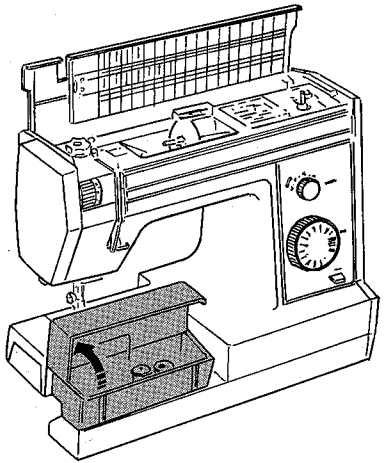
補助テーブルの下側に手をかけて持ちあげます。



《つけ方》

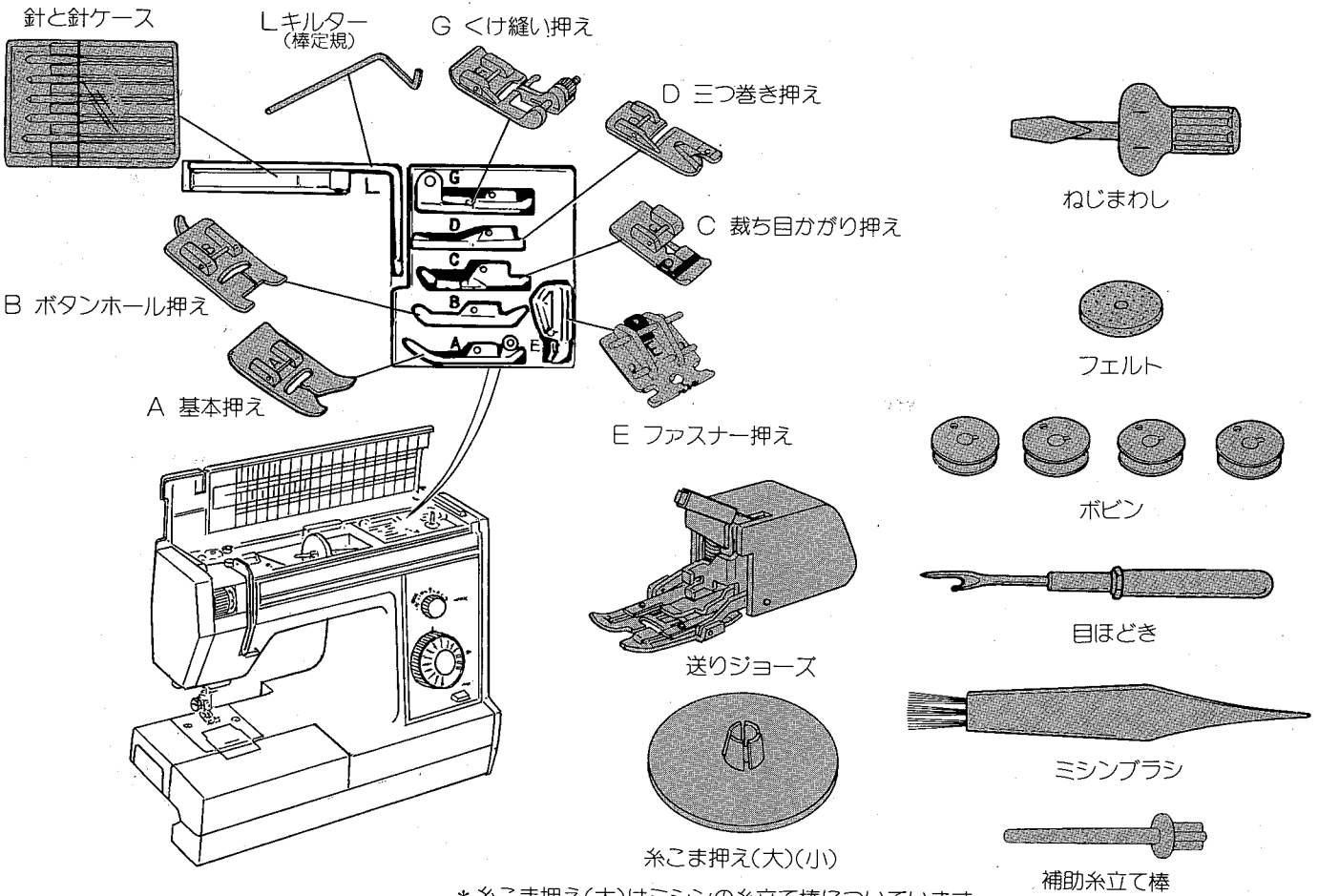
ベースのみぞに補助テーブルの足を合わせてのせ、上から軽く押します。

●小物入れ



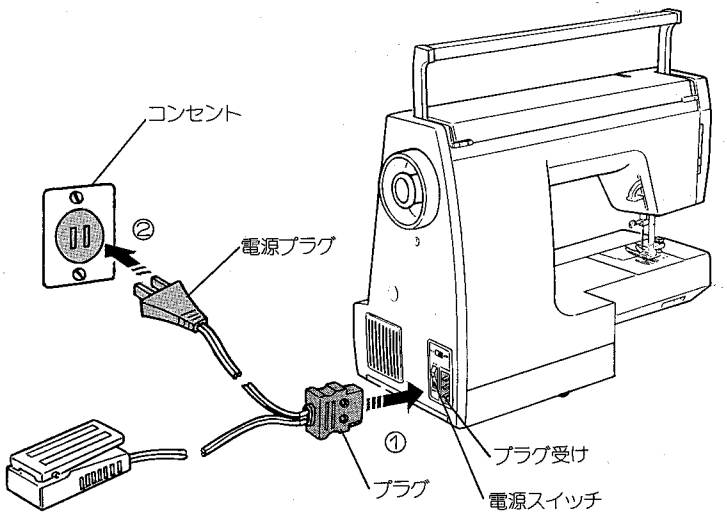
補助テーブルをひらくと、小物入れに押えと付属品が収納されています。

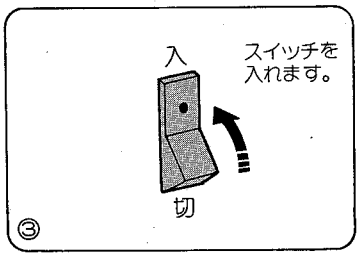
●押えと付属品



＊糸こま押え(大)はミシンの糸立て棒についています。

●電源をつなぎましょう





①電源スイッチを「切」にして、プラグをプラグ受けにさしこみます。

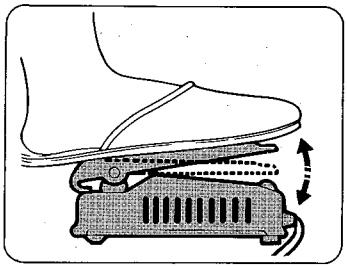
②電源プラグをコンセントにさしこみます。

③スイッチを「入」にします。

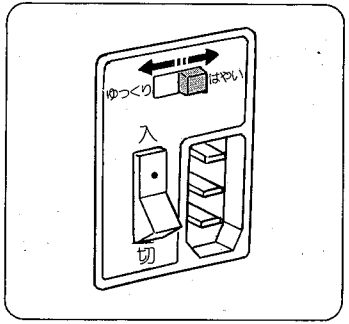
＊電源は、一般家庭用(100V　50／60Hz)です。

＊ミシンを使わないときは、電源プラグを抜いてください。

●速度の調節になれましょう



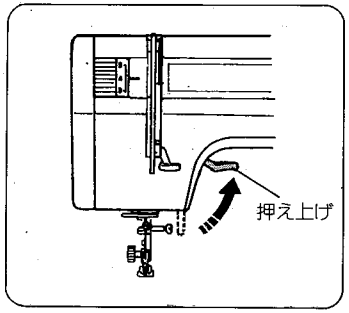
コントローラーは、深く踏みこむほど速くなります。



スライドスイッチを左右に動かして、速さの範囲を調節します。

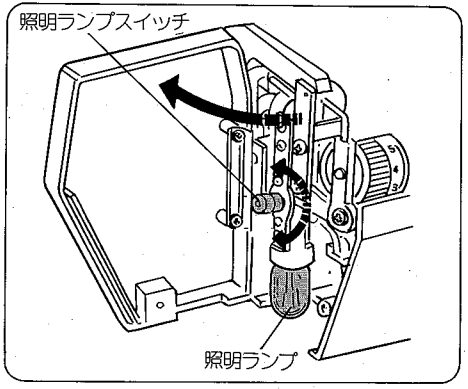
はやい……速く縫うとき
ゆっくり…遅く縫うとき

＊ミシンの運転中は、スイッチの切りかえをしないでください。



＊押え上げをあげ、コントローラーを踏んで、踏みこみと速さの関係になれてください。

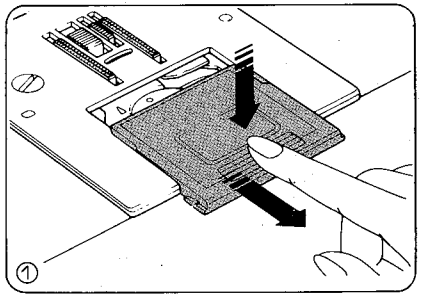
●照明ランプ



照明ランプの点滅は、スイッチをまわします。

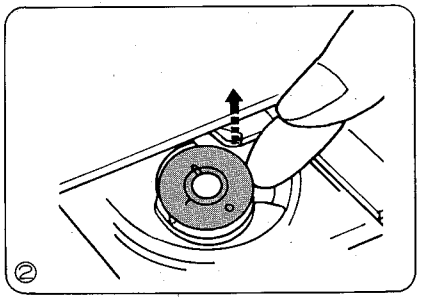
＊安全のために、ランプは、とりつけたままにしてください。

●下糸の準備をしましょう

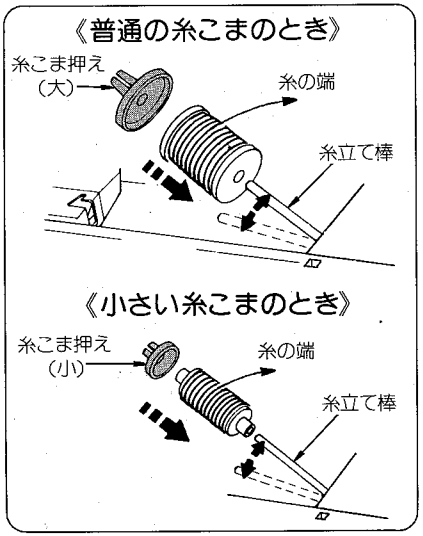


★ボビンをとり出します

①角板を下に押しながら手前に引いてはずします。



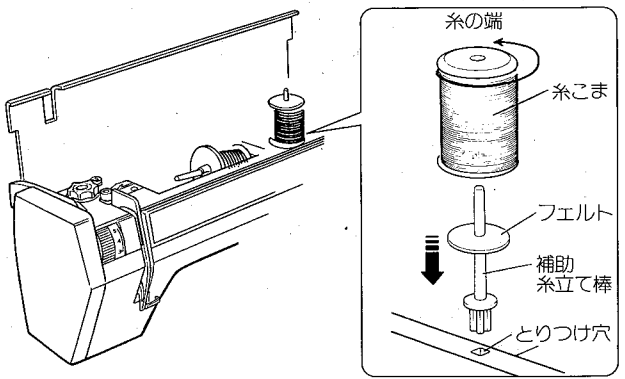
②ボビンをとり出します。



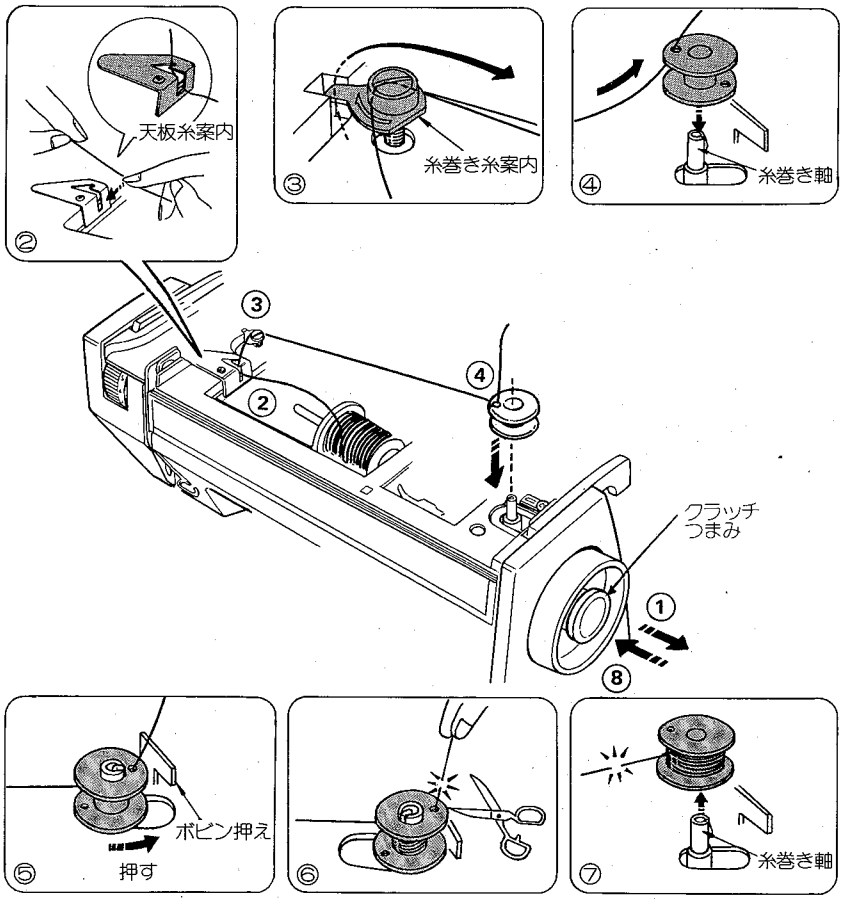
★糸こまをとりつけます

糸立て棒を軽くおこし糸の端が手前から向こう側に出るようにして糸こまを入れます。
糸こま押えで糸こまをおさえたら、糸立て棒をもとに戻します。

＊補助糸立て棒を使うときは、とりつけ穴に立てて、糸こまをとりつけます。



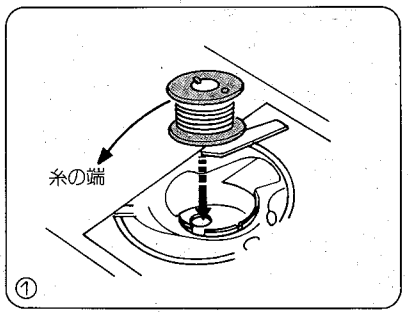
★ボビンに糸を巻きます



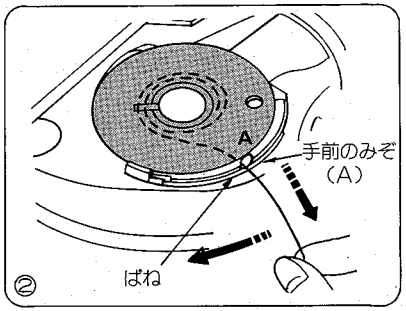
①クラッチつまみを引き出します。
②糸こまから引き出した糸を、天板糸案内に押しつけるようにして、掛けます。
③糸巻き糸案内に糸を掛けます。
④ボビンの穴に内側から糸を通し、糸巻き軸にさしこみます。
⑤ボビンを、ボビン押えの方に押しつけます。
＊糸巻き軸の移動は、必ずミシンを止めてから行なってください。

⑥糸の端をつまんだまま、コントローラーを軽く踏みはじめます。ボビンに糸が三重ぐらい巻きついたら、いったん踏みこみを止めて糸を切ります。
⑦コントローラーをふたたび踏んで、巻きおわったらボビンをもとに戻し、糸巻き軸よりはずして糸を切ります。
⑧クラッチつまみを押しこみます。

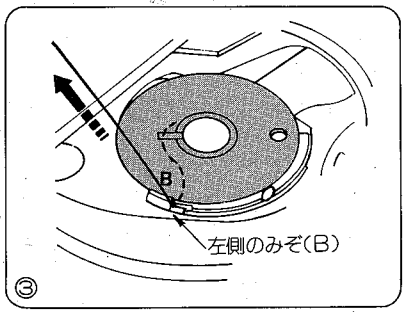
★ボビンをかまにセットします



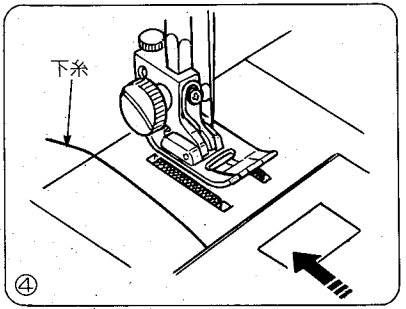
①糸の端を矢印方向に出し、ボビンをかまに入れます。



②糸の端を引きながら手前のみぞ(A)に掛け、さらに糸を引いて、みぞの外側とばねの間を、左へ移動させます。



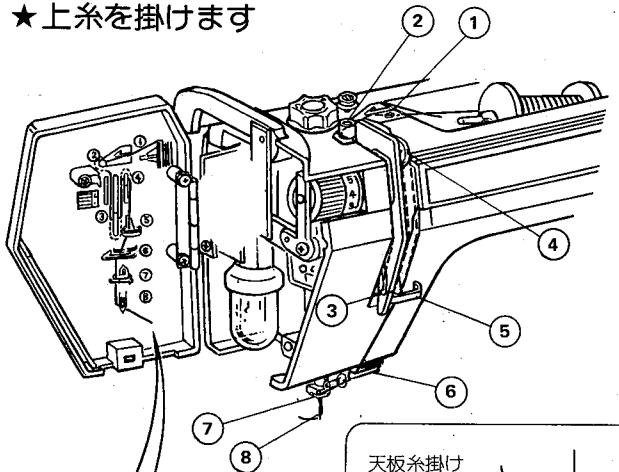
③糸を左側のみぞ(B)に掛けるようにして向こう側に出します。

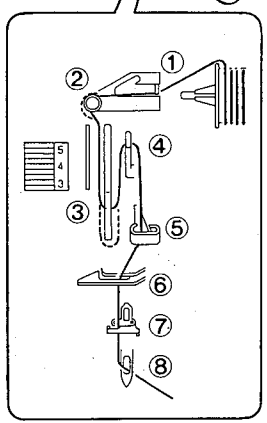


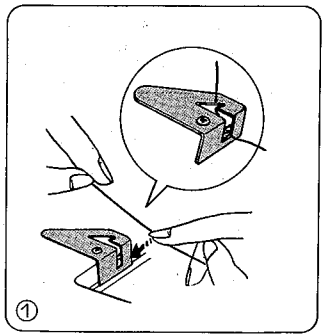
④下糸は10cmくらい引き出して、角板をしめます。

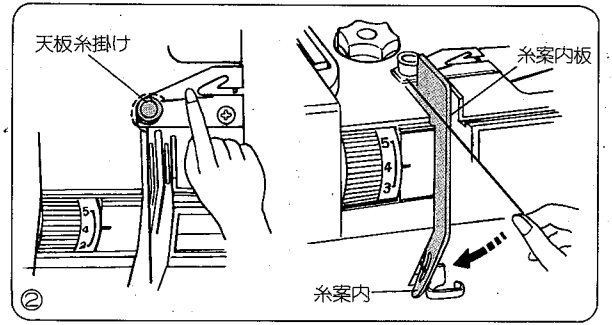
●上糸の準備をしましょう

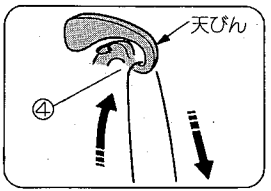
★上糸を掛けます

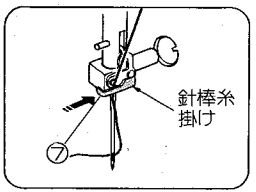












押え上げをあげ、天びんが最上部にあるのを確かめて、糸こまを押えながら、正しく糸を掛けてください。

①糸こまから引き出した糸を、下に押しこむようにして、天板糸案内に掛けます。

②糸を指先で軽く押え、天板糸掛けの下に巻きつけるようにして掛け、糸案内板にそっておろします。

③糸案内の下をまわして、右上に引きあげます。

④天びんに、左からうしろへまわして右手前に出し、まっすぐ下におろします。

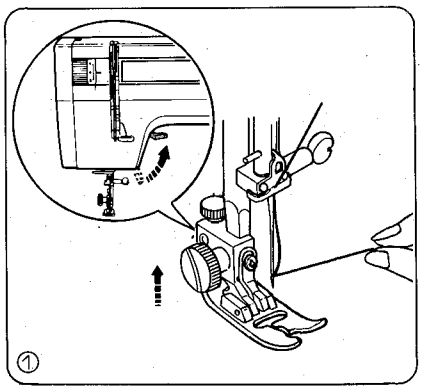
⑤糸掛け(上)に右から左に掛けます。

⑥糸掛け（下）に左から右に掛けます。

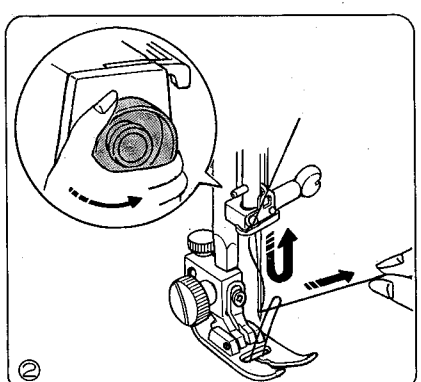
⑦針棒糸掛けに左から掛けます。

⑧針に糸を通します。(糸を針穴の手前から向こう側に通します。)

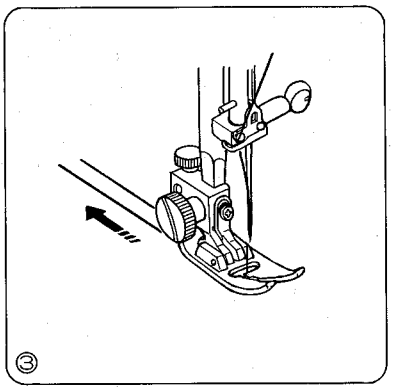
★下糸を引きあげます



①押え上げをあげ、左手で上糸の端をつまんで、ややゆるめて持ちます。

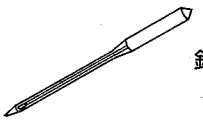


②右手ではずみ車を手前にまわし、針をいったんさげて、あげます。天びんが最上部にきたら、上糸を軽く引くと下糸の輪が引き出されます。



③上糸と下糸を、押えの下から向こう側に10㎝ほど引き出して、そろえておきます。

●布に適した糸や針を選ぶ目安

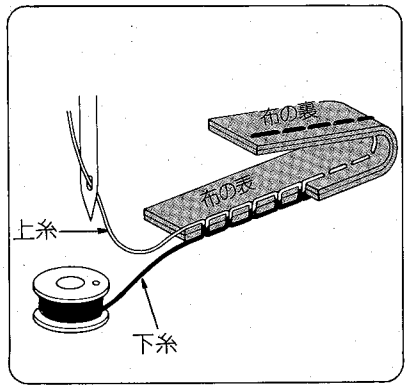
布の厚さ	布の種類				糸	針 
	木綿	絹	ウール・化繊織物	ニット		
うすい布	ローン、ボイル	シフォン、ジョーゼット、オーガンジー	デシン、クレープ、モスリン	スムーズニット地、トリコット地	絹 糸 80番～100番 綿 糸 80番～100番 化繊糸 80番～100番	9番～11番
普通の布	ブロード、サッカー、ピケ	タフタ、ファイユ、サテン	ジョーゼット、フラノ、サキソニー	ジャガードニット地	絹 糸 50番 綿 糸 60番～80番 化繊糸 50番～80番	11番～14番
					綿 糸 50番	14番
厚い布	デニム、キルティング、ギャバジン		ツィード、ギャバジン、コート地	ダブルニット地	絹 糸 50番 綿 糸 40番～50番 化繊糸 40番～50番	14番～16番
					絹 糸 30番 綿 糸 30番	16番

＊ふつう上糸と下糸は同じ糸を使います。
＊うすい布には細い糸と針、厚い布には太い糸と針を使うのが原則です。
＊ごくうすい布は、下に紙をしいて縫ってください。

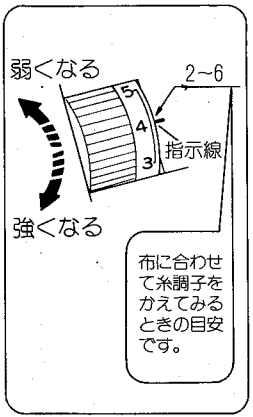
＊針や糸は、実際に縫う布の端切れを使って、試し縫いをして確かめてみましょう。
＊ジャノメブルー針は、柄の部分が青色をしています。伸縮性のある布（ジャージー、トリコット）や、目とびしやすい布に効果があります。

●糸調子を合わせましょう

★正しい糸調子



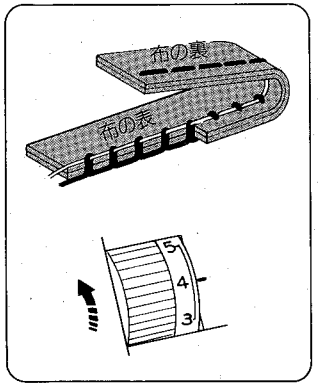
上糸と下糸が布のほぼ中央で、まじわります。



素材や縫い方によって、糸調子ダイヤルをまわして調整します。
糸調子が正しく調整されていないと、縫い目がきたなくなり、布にしわがよったり、糸が切れたりします。

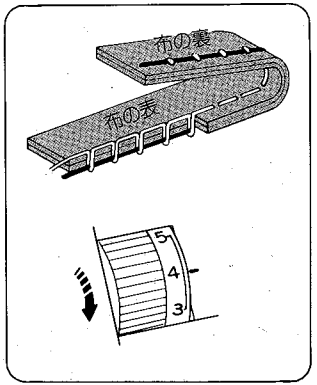
＊糸調子は、それぞれの、《ミシンのセット》にその目安を示してあります。

★上糸が強すぎるとき



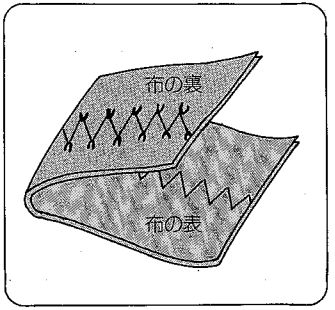
下糸が布の表に出るので、ダイヤルを小さな目盛に合わせて、上糸調子を弱めます。

★上糸が弱すぎるとき



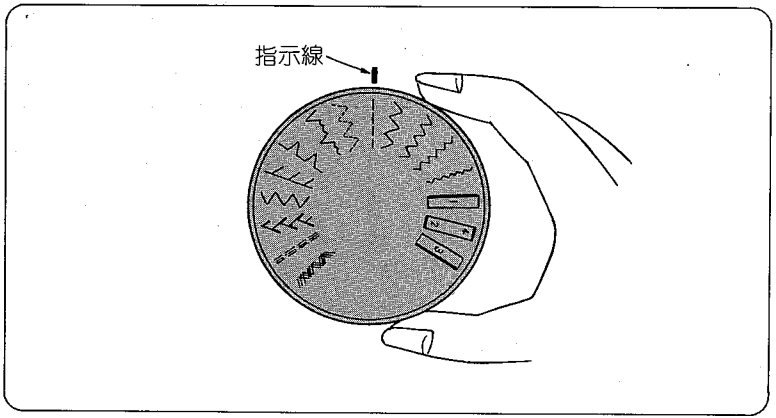
上糸が布の裏に出るので、ダイヤルを大きな目盛に合わせて、上糸調子を強めます。

《ジグザグ縫いの糸調子》



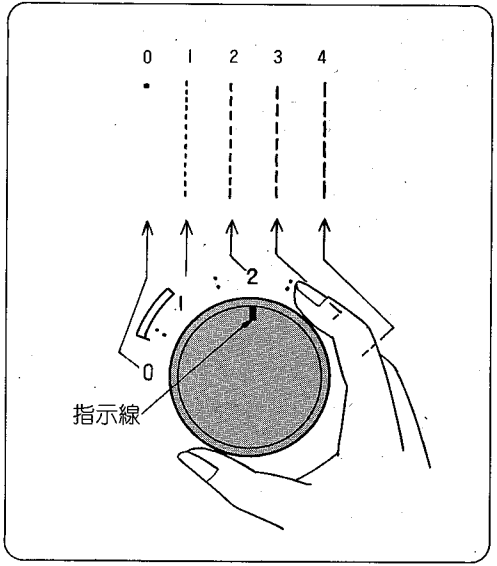
ジグザグ縫いの糸調子は、布の裏側に上糸が少し出るくらいに調節します。

●模様の選び方



針を布よりあげ、模様選択ダイヤルをまわして、模様を指示線に合わせます。

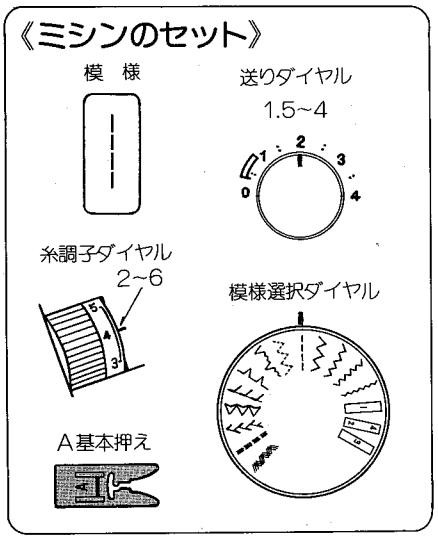
●縫い目のあらさの調節

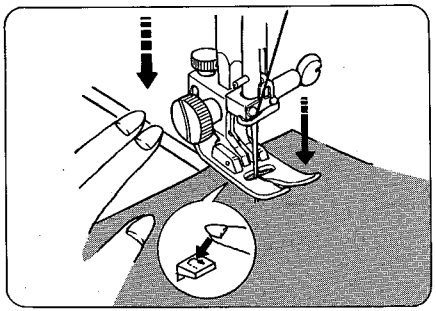


送りダイヤルをまわして、指示線を目盛りに合わせます。
目盛りが大きくなると、縫い目はあらくなります。
は、ボタン穴かがりの縫い目あらさの調節範囲を示します。

●直線縫い

《ミシンのセット》

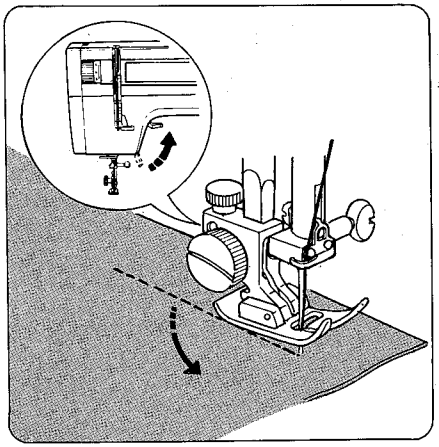




★縫いはじめ

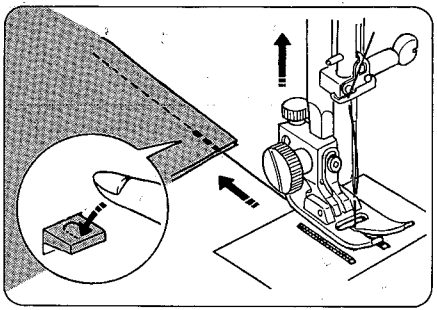
糸と布を左手で押え、はずみ車を手前にまわして、縫いはじめの位置に針をさします。押え上げをさげて、コントローラーを軽く踏み、ゆっくり縫いはじめます。

＊縫いはじめのほつれ止めは、返し縫いレバーを押しながら数針返し縫いをします。



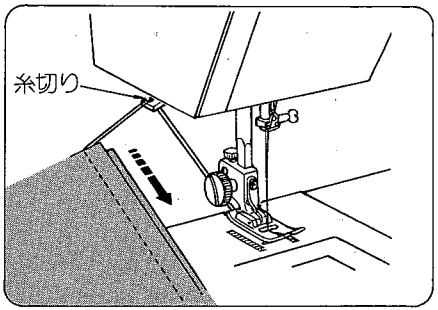
★縫い方向をかえるには

ミシンを止め、針を布にさしたままで押え上げをあげ、布をまわして縫い方向をかえます。



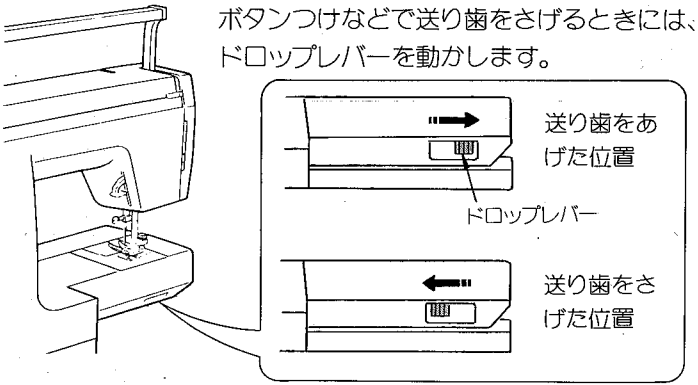
★縫いおわり

返し縫いレバーを押しながら数針返し縫いをします。
押え上げをあげて、布を向こう側に静かに引き出します。



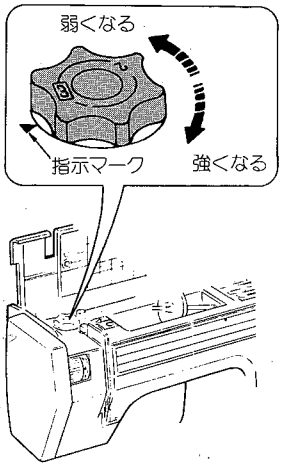
糸切りで糸を切ります。

●ドロップレバーの使い方



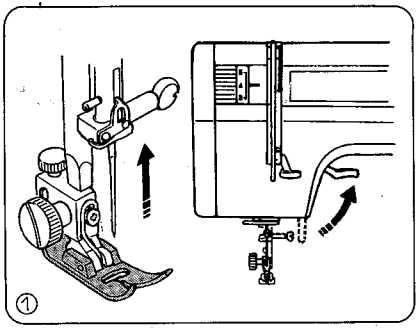
ボタンつけなどで送り歯をさげるときには、ドロップレバーを動かします。

●押え圧ダイヤル

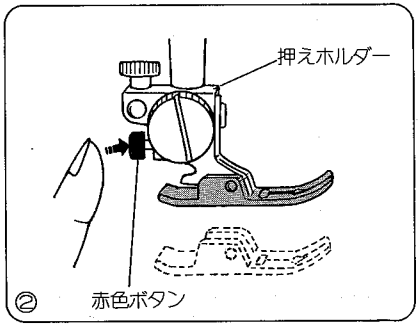


○普通縫いのときは……「3」
○うす手の化繊地や伸縮性のある布などで縫いずれが起きるとき、または、アップリケなど厚手の布で縫いしろ部分が重なり合うときなど……「2」または「1」

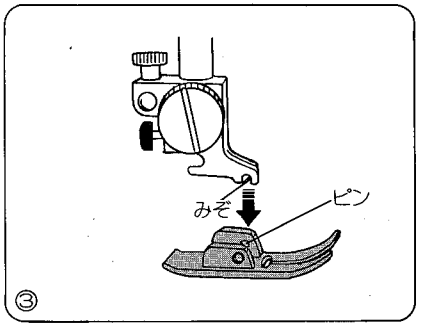
●押えのとりかえ



①針と押え上げをあげます。

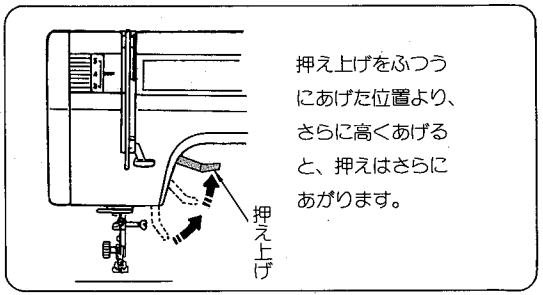


②押えホルダーの赤色ボタンを押して、押えをはずします。



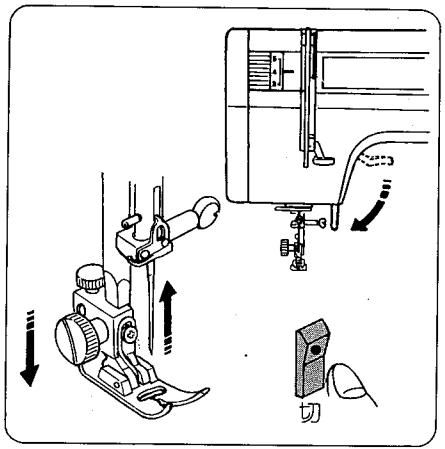
③押えのピンを押えホルダーのみぞの真下において、押え上げを静かにおろします。

《厚い布を入れるとき》



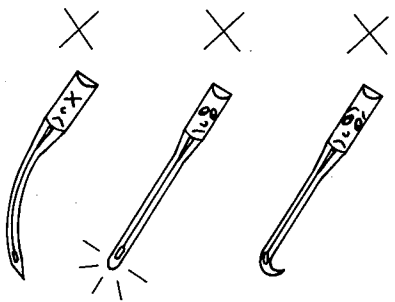
押え上げをふつうにあげた位置より、さらに高くあげると、押えはさらにあがります。

●針のとりかえ

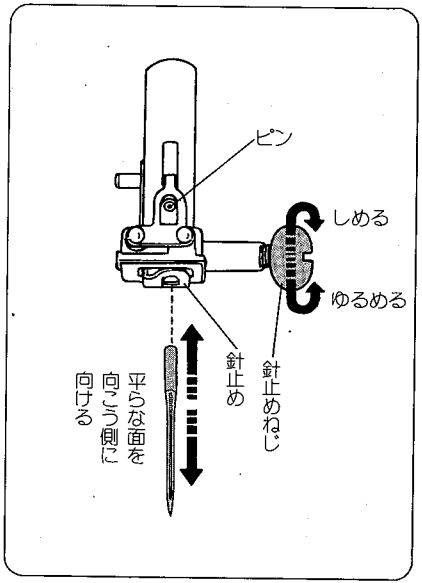


○針をあげ、押え上げをさげます。

○電源スイッチを切ります。



＊全体にまがってしまったものや、針先のつぶれたりまがったりしたものは、使用しないでください。



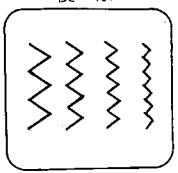
○針止めねじを手前にまわしてゆるめ、針をはずします。

○針の平らな面を向こう側に向けて、ピンにあたるまで針止めにさしこんで、針止めねじをかたくしめます。

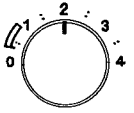
●ジグザグ縫い

《ミシンのセット》

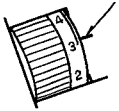
模　様



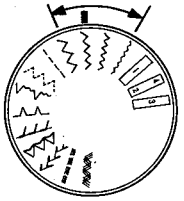
送りダイヤル
0.5~4



糸調子ダイヤル
2~5

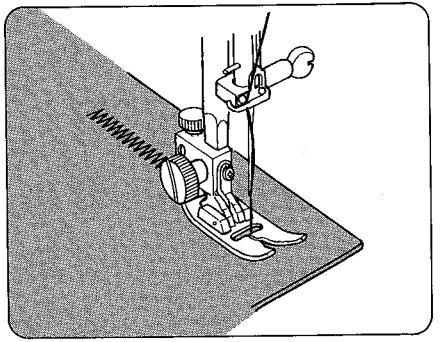


模様選択ダイヤル



A基本押え

※模様選択ダイヤルをまわすときは、針を布からあげてください。

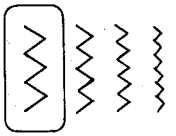


模様選択ダイヤルで縫い目の巾を、送りダイヤルで縫い目のあらさを調節して縫います。

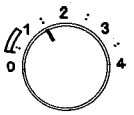
●ジグザグ縫い裁ち目かがり

《ミシンのセット》

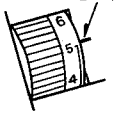
模　様



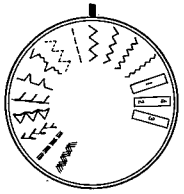
送りダイヤル
1~2



糸調子ダイヤル
3~7

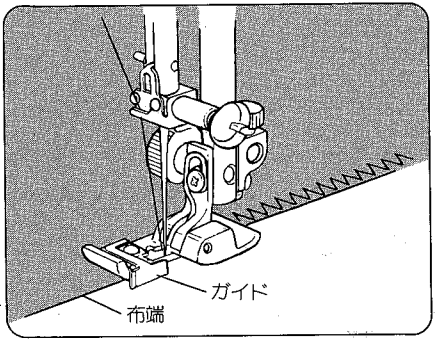


模様選択ダイヤル



C裁ち目かがり押え

布端のほつれ止めとして広く利用します。



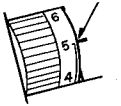
布端を裁ち目かがり押えのガイドにあてて縫います。

●かがり縫いステッチ

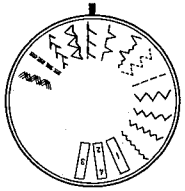
《ミシンのセット》

模　様

糸調子ダイヤル
3~7

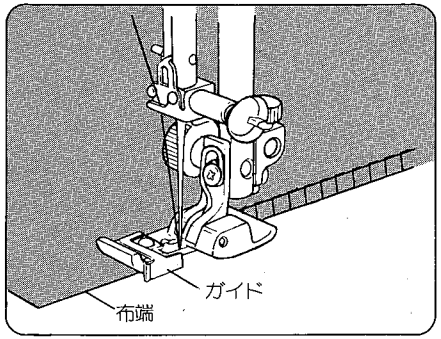


模様選択ダイヤル



C裁ち目かがり押え

地縫いをかねたかがり縫いに利用します。
また、布端のほつれ止めとしても使えます。

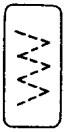


布端を裁ち目かがり押えのガイドにあてて縫います。

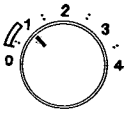
●トリコット縫い裁ち目かがり

《ミシンのセット》

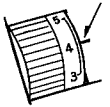
模　様



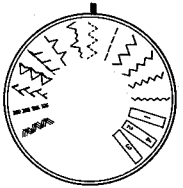
送りダイヤル
0.5~1.5



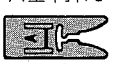
糸調子ダイヤル
3~6



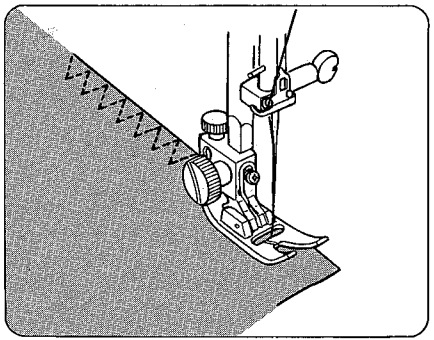
模様選択ダイヤル



A基本押え



ほつれやすい布や伸縮性のある布のほつれ止め、布端の返り防止などに利用します。



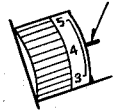
布端を押えの右端よりやや内側にし、織り糸を1～2本残すようにして縫います。

●直線三重縫い

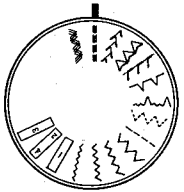
《ミシンのセット》

模　様

糸調子ダイヤル
2~6

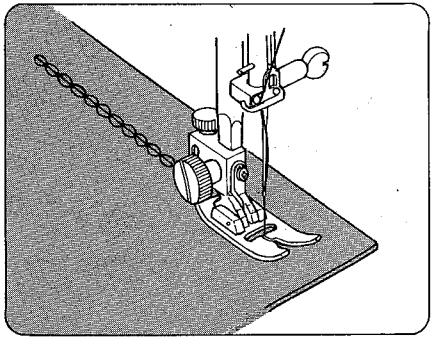


模様選択ダイヤル



A基本押え

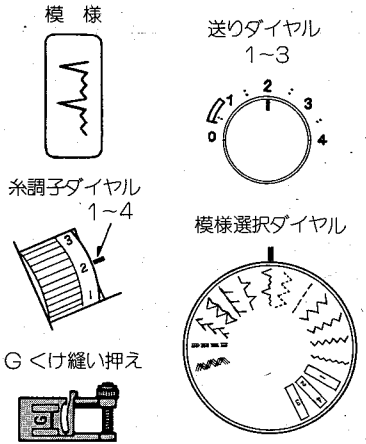
丈夫な縫い目なので、
補強縫いに便利です。



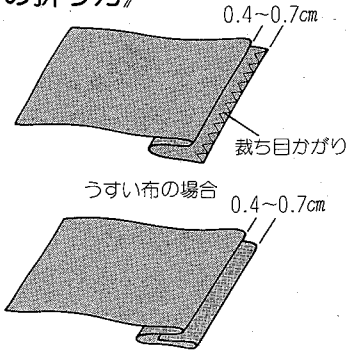
布が前後するので縫い
目がまがらないように
注意して縫います。

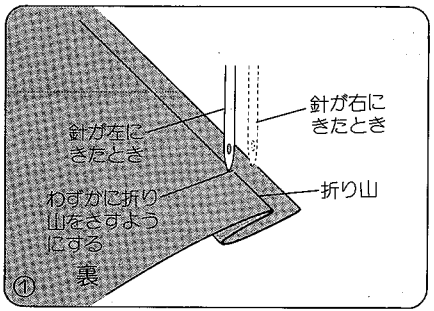
●くけ縫い(まつり縫い)

《ミシンのセット》

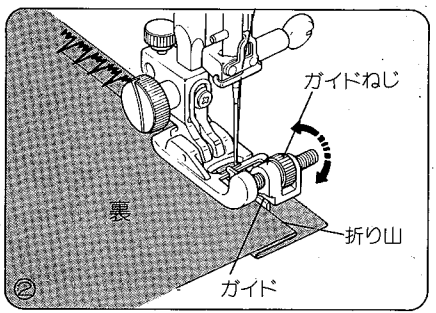


《布の折り方》

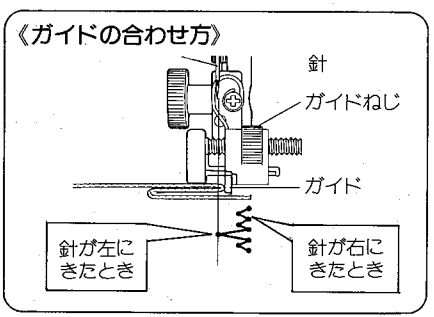




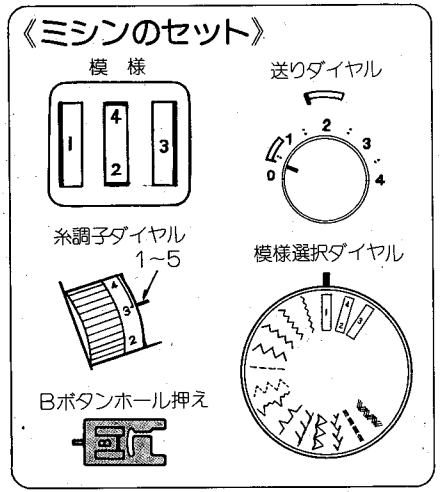
①針が左にきたとき、わずかに折り山をさすように布を置いて押え上げをさげます。



②ガイドねじをまわして、ガイドを折り山に合わせ、針が折り山からはずれないように縫います。



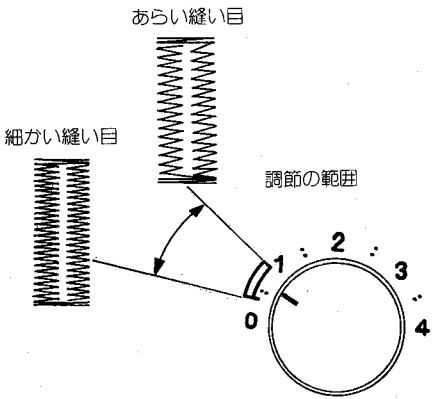
●ボタン穴かがり(ボタンホール)



○縫うものと同じ布で試し縫いをして、セットを確かめましょう。

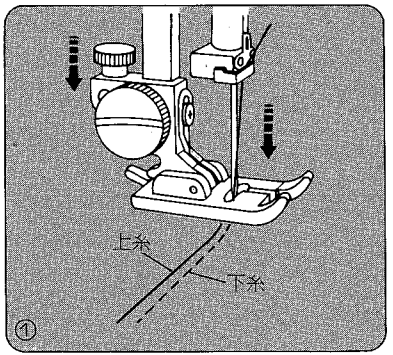
○伸縮性のある厚手の布や、やわらかい厚手の布（ジャージー、ツイードなど)は、押え圧ダイヤルを「2」にするときれいに仕上がります。

○伸縮性のある布には裏に伸びにくい芯地をはってください。



《縫い目あらさの調節》

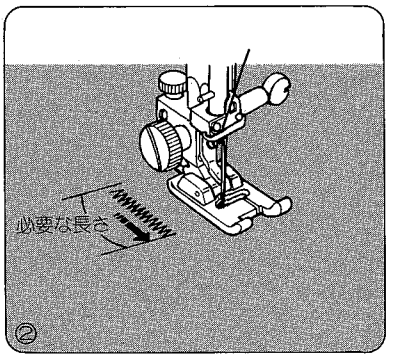
ボタン穴かがりの縫い目のあらさは、 の範囲で調節します。



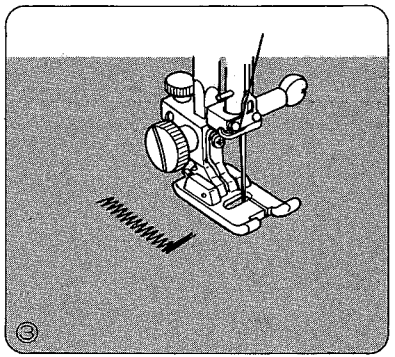
①模様 を選びます。

上糸と下糸を横に引き出してそろえます。

縫いはじめの位置に針をさして、押え上げをさげます。

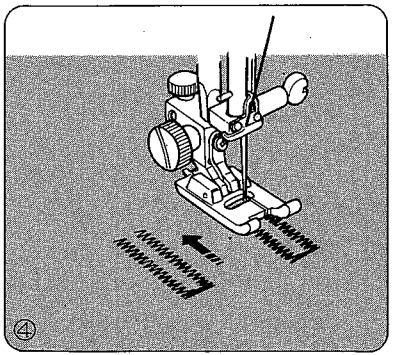


②左側を必要な長さまで縫ったら、ミシンを止め、針をあげます。



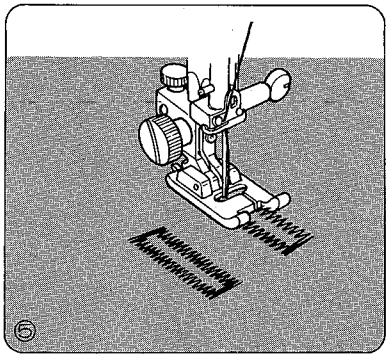
③模様 4 2 を選びます。

かんぬきを5針くらい縫い、ミシンを止めて、針をあげます。



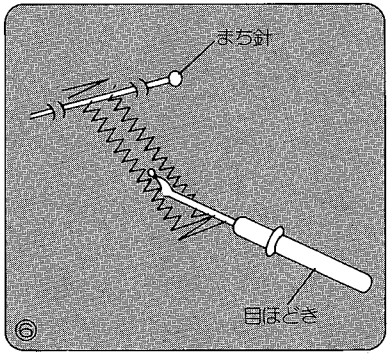
④模様 3 を選びます。

左側と同じ長さまで縫いミシンを止めて、布から針をあげます。



⑤模様 4 2 を選びます。

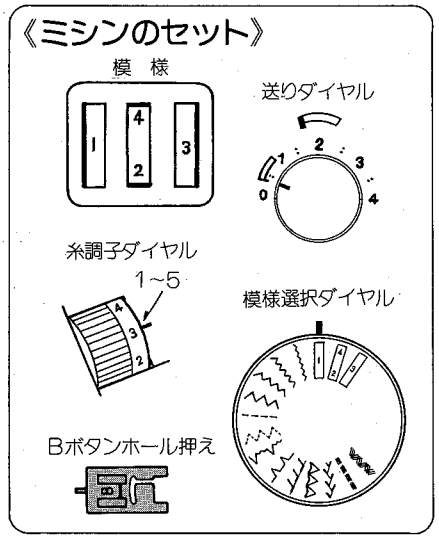
かんぬきを5針くらい縫い、ミシンを止めて、布から針をあげます。押え上げをあげて布を引き出し、上糸・下糸を10cmくらい残して切ります。下糸を引いて上糸を布の裏に引き出し、上糸と下糸をむすびます。

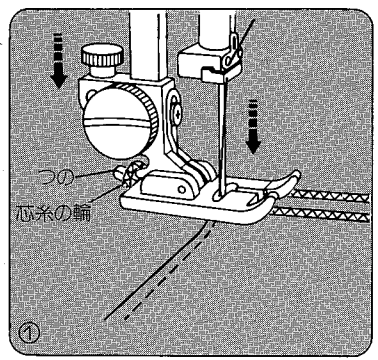


⑥かんぬきの内側にまち針を渡して、目ほどきでかがった糸を切らないように切りひらきます。

●芯入りボタン穴かがり

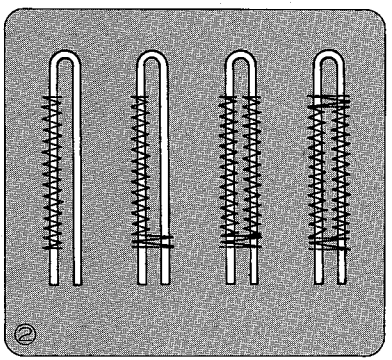
《ミシンのセット》



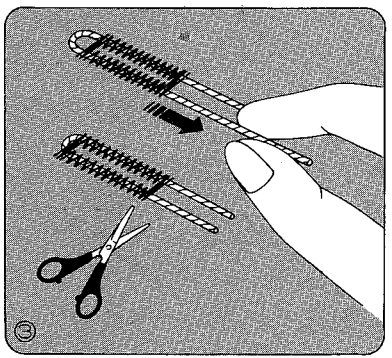


①模様 1 を選びます。

上糸と下糸を横に引き出してそろえます。
芯糸の輪を押えの後ろ側にあるつのに掛け、押えの下から手前に、平行になるように引き出します。
縫いはじめの位置に針をさし、押え上げをさげます。



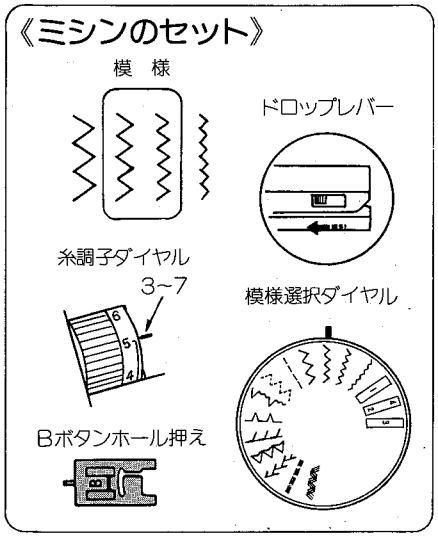
②芯糸を軽く布面に押しつけながら縫います。縫い方は、24~25ページを参照してください。



③左側の芯糸を引いてたるみをなくし、余分な芯糸を切ります。

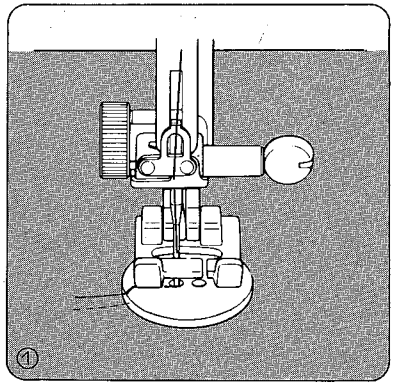
●ボタンつけ

《ミシンのセット》



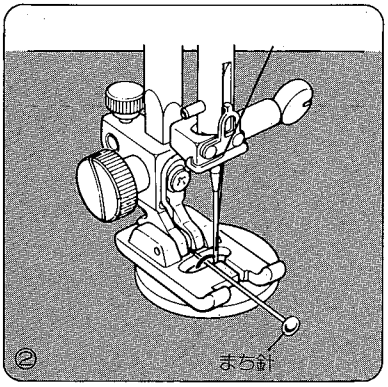
模様選択ダイヤルをボタン穴の巾に合わせて、セットします。

ドロップレバーを左に動かして送り歯をさげます。(さげ方は、17ページをごらんください。)



①はずみ車を手前にまわして、針が左にきたときボタンの左の穴におりるようにします。

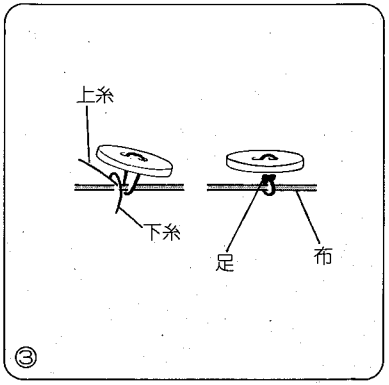
ボタンの左右の穴が真横にくるようにして押え上げをさげます。



②押えの中央にまち針をのせ、はずみ車を手前にまわして針が左右の穴におりることを確かめます。

10針くらい縫ったら、上糸・下糸を20cmくらい残して切ります。

＊縫いはじめの上糸と下糸は、はさみで切り取ってください。

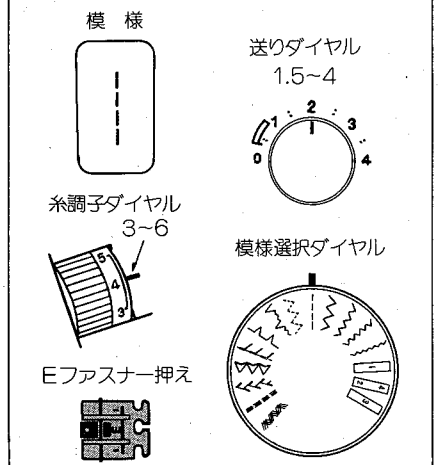


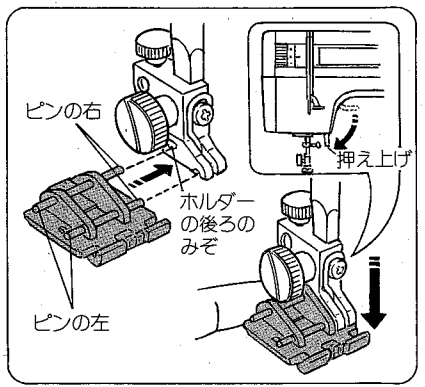
③上糸をボタンと布の間に引き出してから、上糸を強く引いて下糸をボタンと布の間に引き出し、上糸と下糸を浮かせた足の部分にそれぞれ反対方向に数回巻きつけて結びます。

＊縫いおわったら、ドロップレバーを右に戻して送り歯をあげます。

●ファスナーつけ

《ミシンのセット》

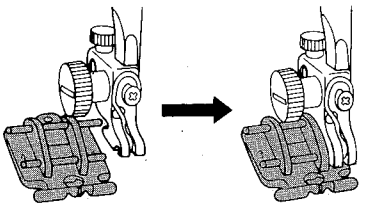




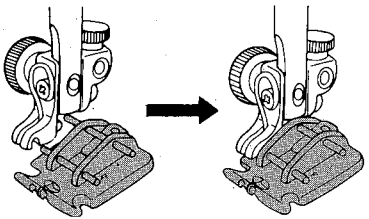
★ファスナー押えのつけ方

○押えの後ろのピンを押えホルダーの後ろのみぞに掛けます。

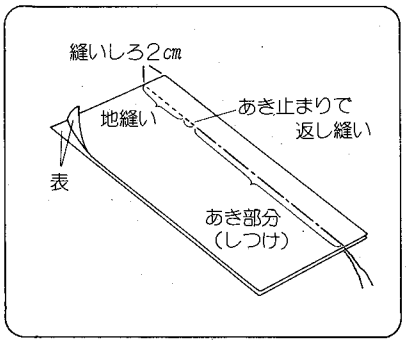
○指で軽くささえながら静かに押え上げをさげます。



○むしの左側を縫うときは、ピンの右を、ホルダーのみぞにとりつけます。



○むしの右側を縫うときは、ピンの左を、ホルダーのみぞにとりつけます。

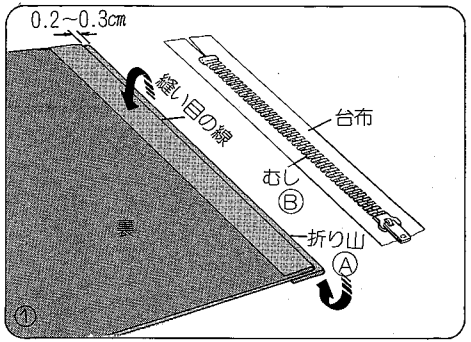


★準備

○布を中表に合わせて、あき止まりまで地縫いをし数針返し縫いをします。

○あき部分は、しつけをしておきます。

＊しつけ部分は上糸調子を弱くして送りダイヤルを最大にして縫い、糸を7～8㎝残して切ります。

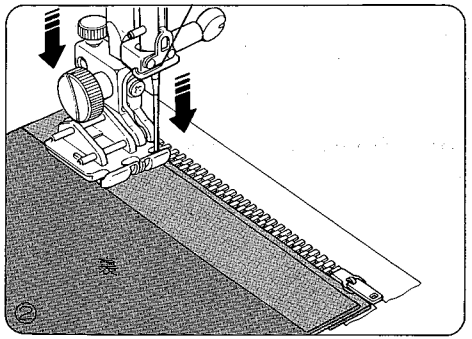


★縫い方

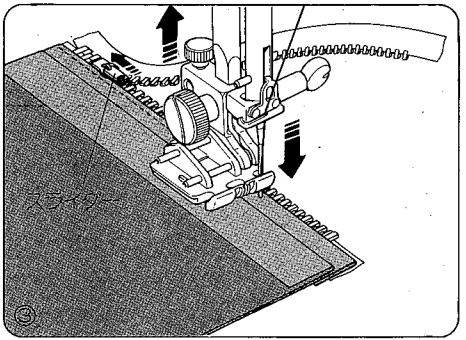
*①上の布の縫いしろを、縫い目の線で折り返します。

下の布の縫いしろは、縫い目の線から0.2~0.3cm出して、下に折り返します。

ファスナーのむしⒷを、折り山Ⓐにそわせて、ファスナーの台布にのせます。

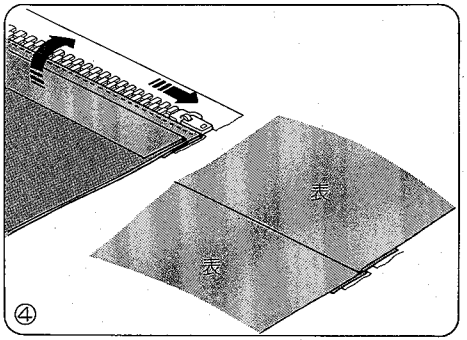


②押えのピンの右を押えホルダーにとりつけます。縫いはじめの位置に針をさし、押え上げをさげて縫います。



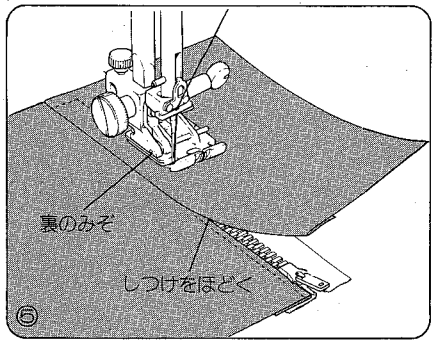
③押えがスライダーにあたる手前で、ミシンを止めます。

はずみ車をまわして針をさげ、押え上げをあげます。スライダーを押えの向こう側にずらし、押え上げをさげて残りを縫います。



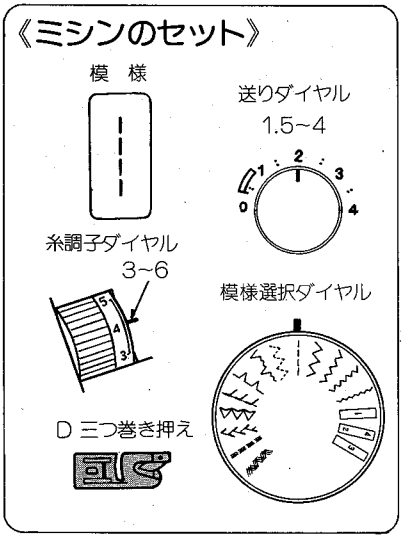
④スライダーをとじ、布をひらいて、表にします。

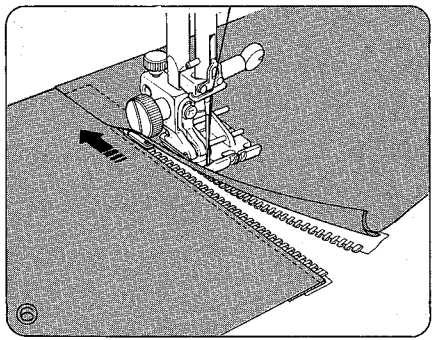
●三つ巻き縫い



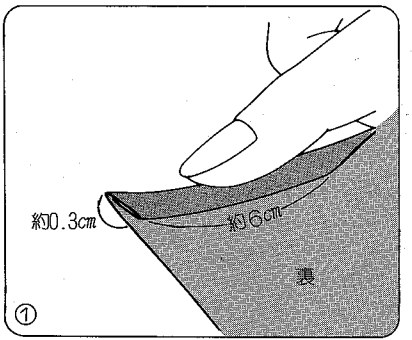
⑤押えのピンの左を押えホルダーにつけかえ、布の上から押えの裏のみぞにファスナーのむしをあてて縫います。
押えがスライダーにあたる手前でミシンを止め、針を布にさしたままで押え上げをあげて、しつけ糸をほどきます。

《ミシンのセット》



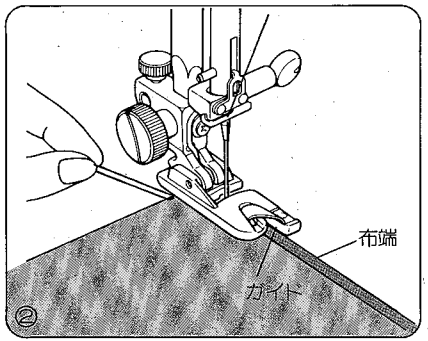


⑥スライダーを押えの向こう側にずらし、押え上げをさげて残りを縫います。



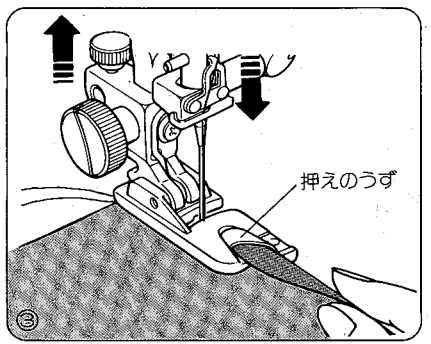
①布端の長さ約6cmを、約 0.3cmの巾で2度折りまげます。

＊折り目のつきにくい布は、アイロンで折り目をつけておくと、縫いやすくなります。

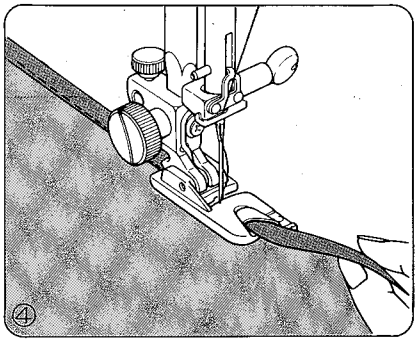


②縫いはじめの部分に針をさし、押え上げをさげます。

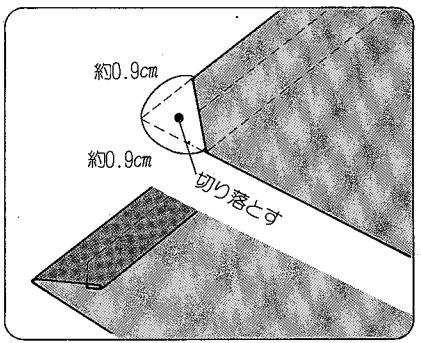
上糸と下糸をそろえて向こう側に引きながら、布端と押えのガイドを合わせて1～2㎝縫います。



③はずみ車をまわして針をさし、押え上げをあげて折りまげた布端を押えのうずの中に巻きこみます。



④押え上げをさげ、布端を立てて、左寄りに引きぎみに持ちあげながら縫います。

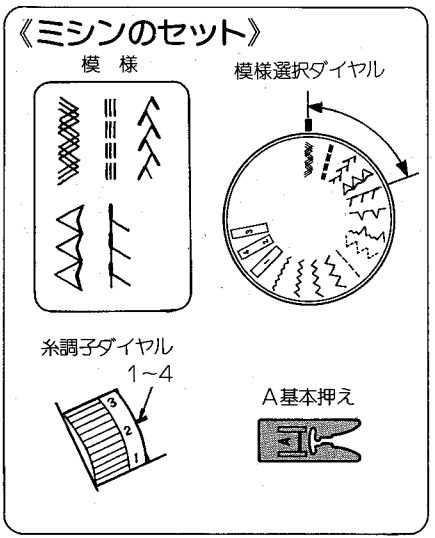


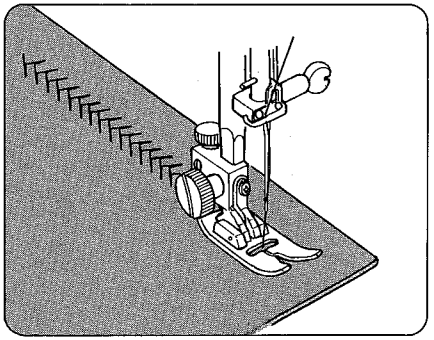
★布端のしまつ

三つ巻き縫いの重なる部分は、布端を切り落として折り合わせ、厚みをうすくします。

●スーパー模様縫い

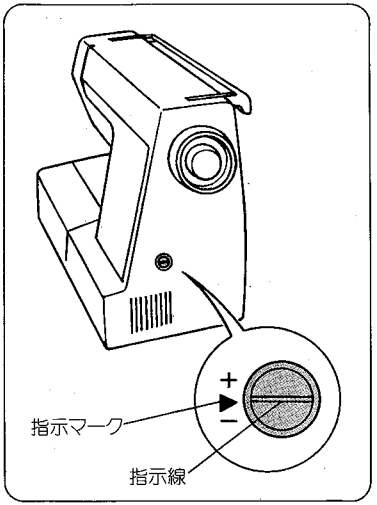
《ミシンのセット》





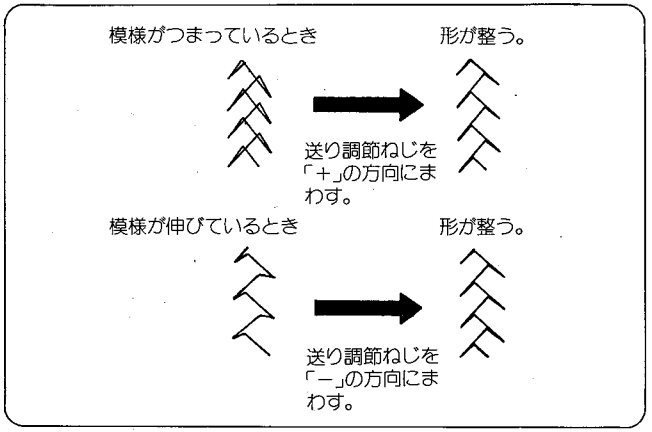
布が前後するので、縫い目がまがらないように注意して縫います。

●スーパー模様の形の整え方



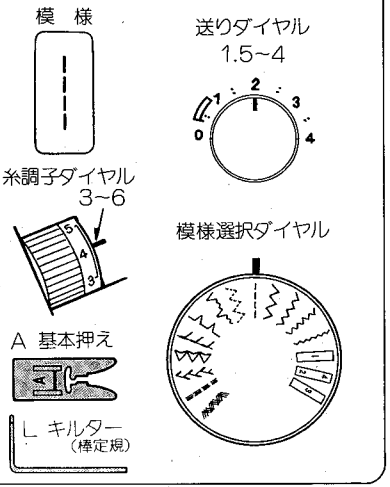
布の種類、枚数、縫いの速さなどによっては、模様の形がくずれる場合もあります。実際に縫うときと同じ条件で試し縫いをしながら送り調節ねじでつぎのようにして調節してください。

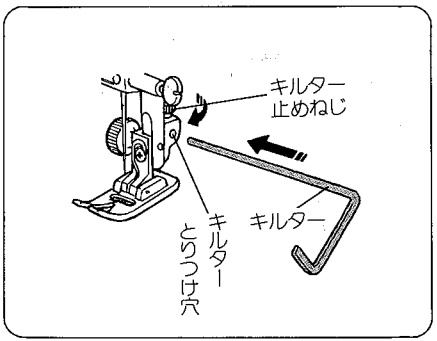
＊標準指示マークと指示線が一致する位置が、模様を正しく縫える目安の位置です。



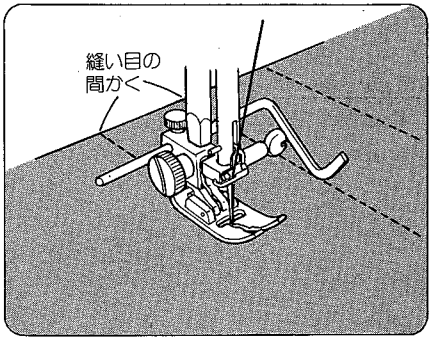
●キルティング

《ミシンのセット》





キルター止めねじをゆるめて、キルター(棒定規)を、とりつけ穴に入れ、縫い目の間かくに合わせて、止めねじをしめます。



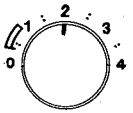
キルターは、前に縫った縫い目をたどるのに使います。

●ピンタック

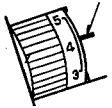
《ミシンのセット》

模　様

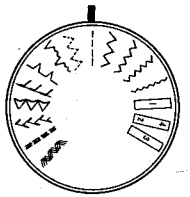
送りダイヤル
1.5~3



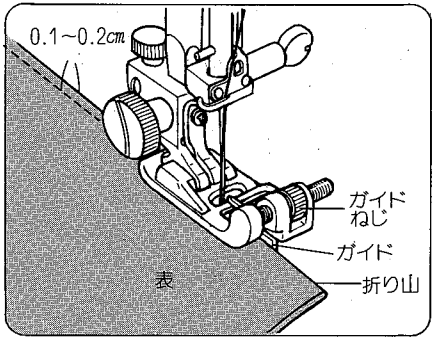
糸調子ダイヤル
2~6

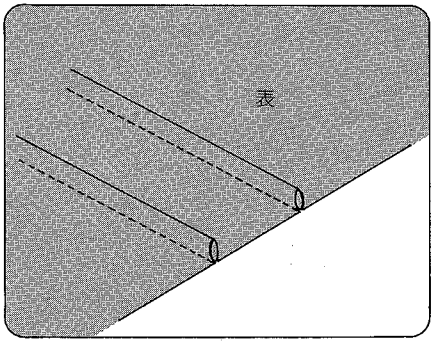


模様選択ダイヤル



G くけ縫い押え





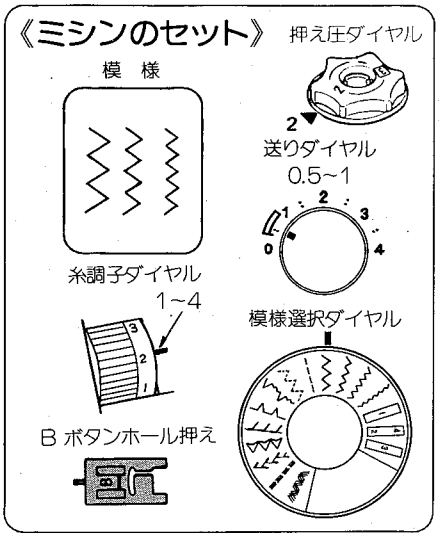
①はずみ車を手前にまわして、針が折り山より0.1~0.2㎝内側におりるように布を置いて、押え上げをおろします。

②ガイドねじをまわして、ガイドを折り山に合わせ、縫います。

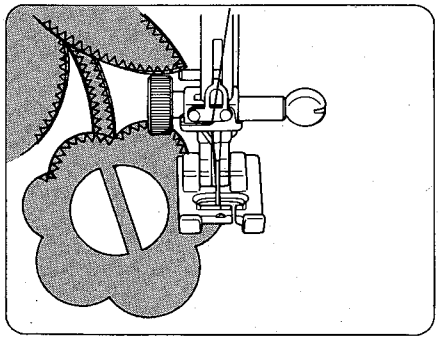
＊布を前後にぴんと張ってください。

●アップリケ

《ミシンのセット》



アップリケ布を糊づけするか、しつけで止めます。



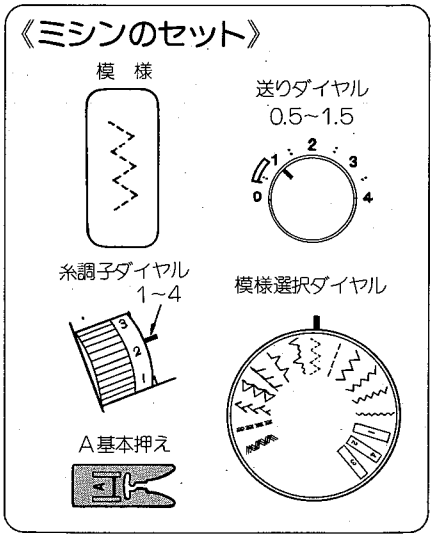
アップリケ布が、針の左にくるようにして、ふちを縫います。

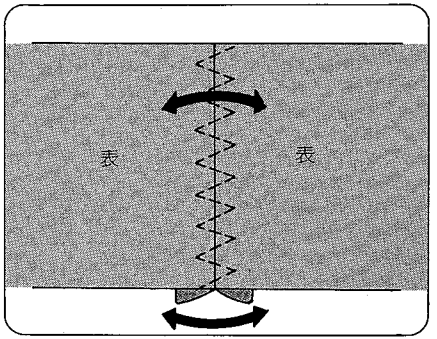
＊急角度のところで向きをかえるときは、針をアップリケ布の外側にさしたままでかえると、きれいに仕上がります。

＊縫いおわったら、押え圧ダイヤルを「3」に戻します。

●パッチワーク

《ミシンのセット》

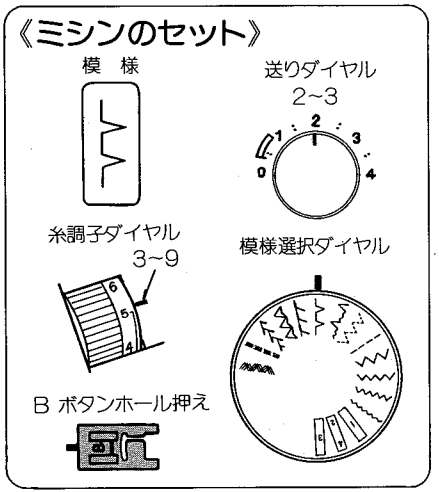




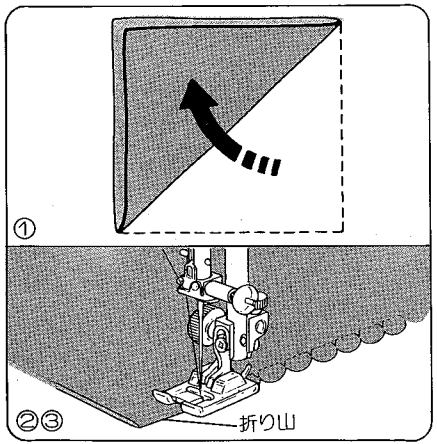
布を中表に合わせ、地縫いをして、縫いしろを割ります。
布の表から、地縫いの線を中心にして縫います。

●シェルタック

《ミシンのセット》



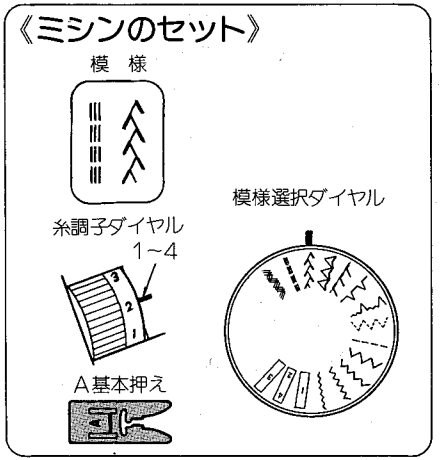
＊糸調子は、シェルタックの山がきれいに出るように強めに調節してください。

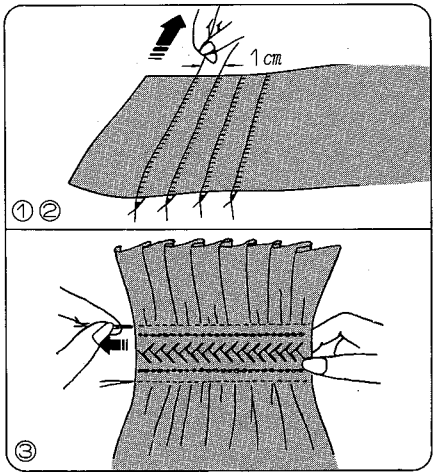


①布をバイアスに2つ折りにします。
②右の針落ちが、布の折り山のきわにおりるようにして縫います。
③布をひらいて、アイロンで山を片側に倒します。

●スモッキング

《ミシンのセット》





①上糸調子を弱くして、縫い目のあらさ 0.3~0.4㎝の直線を、1㎝の間かくで数本縫います。
②上糸と下糸を布の片側で結び、反対側から下糸を引いて、ひだをよせ、上糸と下糸を結びます。
③直線縫いの糸と糸の間に模様縫いをしてから、直線縫いの糸を抜きとります。

●ミシンの手入れと調整

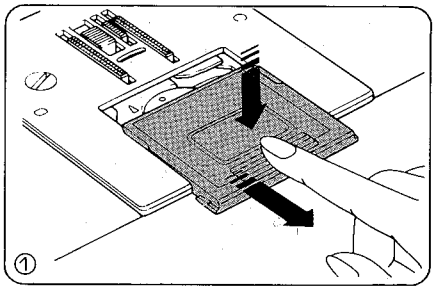
使用後は、ゆきとどいた手入れをして、ミシンをいつも調子よくお使いください。

＊手入れのときには、針をあげてから、必ず電源スイッチを切り、コンセントから電源プラグを抜いてください。

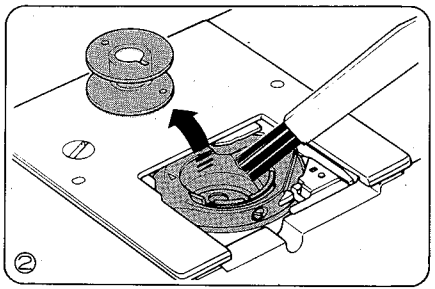
＊手入れのときには、説明されている個所以外は分解しないでください。

糸くずや、ほこりがつくと、不調や故障の原因となりますので、いつもきれいにしておきましょう。

★かまの掃除

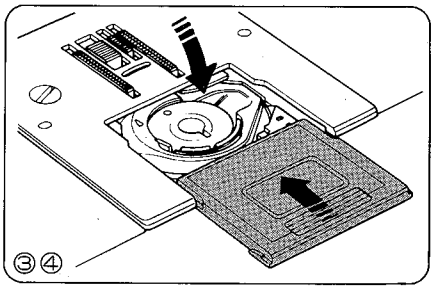


①角板の手前を押しながら引いて、角板をはずします。



②ボビンをとり出し糸くずや、ほこりを、ブラシで掃除します。

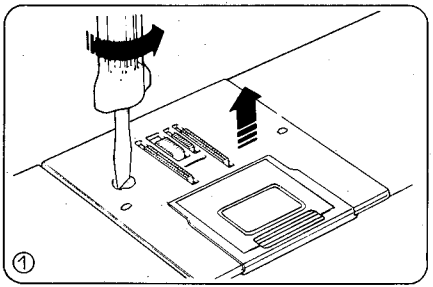
＊ブラシで掃除しにくい乾いた糸くずやほこりは、電気掃除機などで吸いとってください。



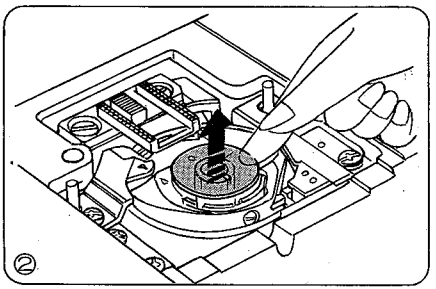
③ボビンを入れます。

④角板をのせ矢印の方向へ押して、つけます。

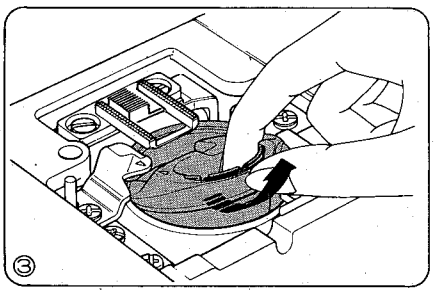
★かまの分解



①針と押えをはずします。針板しめねじをはずし、針板をはずします。

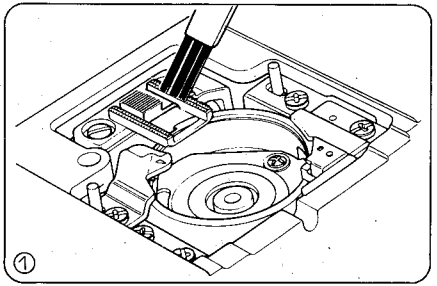


②ボビンをとり出します。

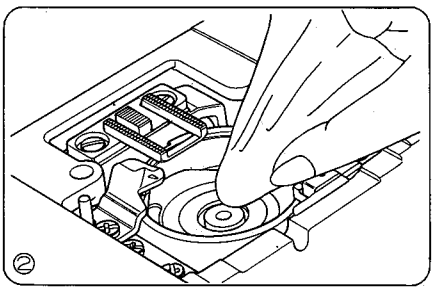


③内がまの手前を上に引きながらはずします。

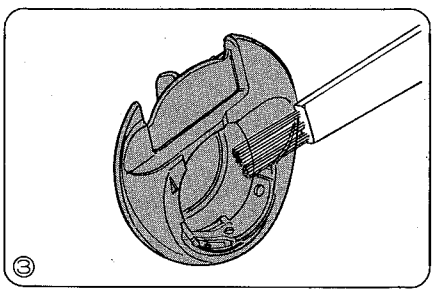
★かまと送り歯の掃除



①送り歯のごみを、ブラシで手前に落とし、さらに外がまを掃除します。

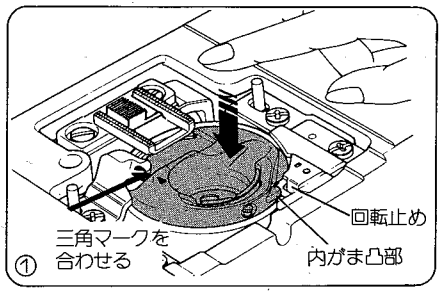


②外がまの中央部を布切れで軽くふきます。

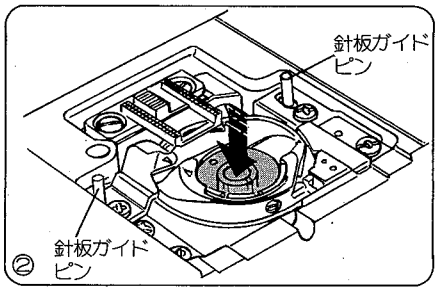


③内がまを、ブラシで掃除し布切れで軽くふきます。

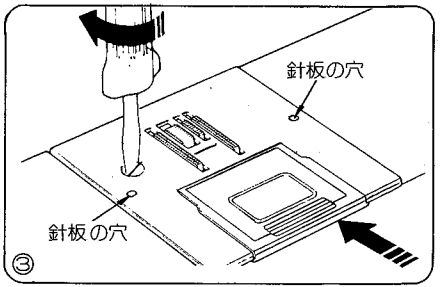
★かまの組立て



①三角マークを合わせ、内がまの凸部が回転止めの左側に入るように、内がまをとりつけます。



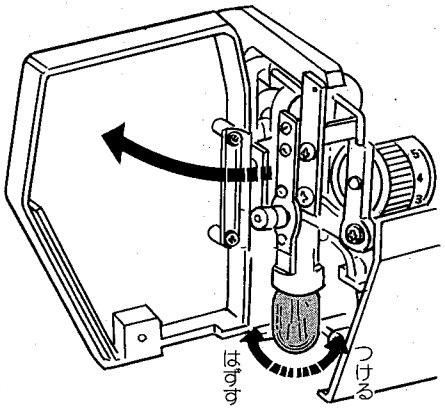
②ボビンを入れます。



③2か所の針板ガイドピンに針板の穴を合わせて、しめねじをしめます。

＊手入れがおわったら、忘れずに針と押えをつけてください。

★電球のとりかえ



はずすとき……左にまわします。
つけるとき……右にまわします。

＊電球（照明用100V-12W）はジャノメミシン直営支店でお求めください。
＊電球をとりかえるときは電源プラグを抜いてください。

●ミシンの調子が悪いときの直し方

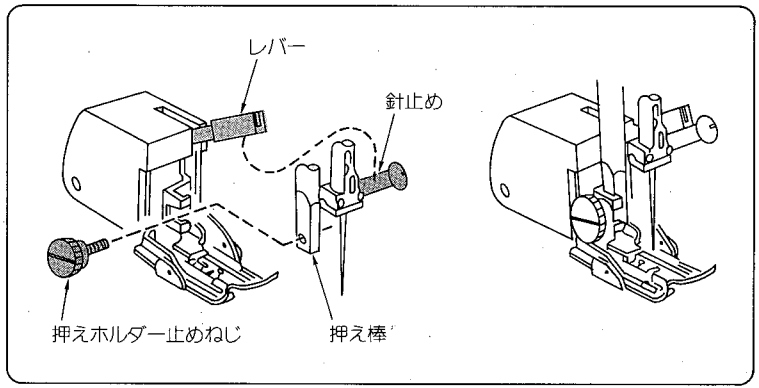
調子が悪い場合	そ　の　原　因	直し方
上糸が切れる。	①上糸の掛け方がまちがっていたり、糸が必要以外のところにからみついている。	11ページ参照
	②上糸調子が強すぎる。	14ページ参照
	③針がまがっていたり、針先がつぶれている。	19ページ参照
	④針のつけ方がまちがっている。	19ページ参照
	⑤縫いはじめに、上糸・下糸を押えの下においていない。	12ページ参照
	⑥縫いおわったとき、布を向こう側に引いていない。	17ページ参照
	⑦針にくらべて糸が太すぎるか、細すぎる。	13ページ参照
下糸が切れる。	①下糸の通し方が、まちがっている。	10ページ参照
	②内がまの中に、ごみがたまっている。	37～39ページ参照
	③ボビンにきずがあり、回転がなめらかでない。	ボビンを交換する。
針が折れる。	①針のつけ方がまちがっている。	19ページ参照
	②針がまがっていたり、針先がつぶれている。	19ページ参照
	③針止めねじのしめつけが、ゆるんでいる。	19ページ参照
	④上糸調子が、特に強すぎる。	14ページ参照
	⑤縫いおわったとき、布を向こう側に引いていない。	17ページ参照
	⑥布にくらべて針が細すぎる。	13ページ参照
	⑦布に針がささっているときに、模様選択ダイヤルをまわしている。	15ページ参照

調子が悪い場合	そ　の　原　因	直し方
縫い目がとぶ。	①針のつけ方がまちがっている。	19ページ参照
	②針がまがっていたり、針先がつぶれている。	19ページ参照
	③布に対して、針と糸が合っていない。	13ページ参照
	④伸縮性のある布や目とびのしやすい布地などのとき、ブルー針を使っていない。	13ページ参照
	⑤上糸の掛け方がまちがっている。	11ページ参照
	⑥品質の悪い針を使用している。	針を交換する。
	⑦押え圧が弱い。	17ページ参照
縫い目がしわになる。	①上糸調子が合っていない。	14ページ参照
	②上糸下糸の掛け方がまちがっていたり、糸が必要以外の部分にからみついている。	10、11ページ参照
	③布にくらべて針が太すぎる。	13ページ参照
	④布にくらべて縫い目があらすぎる。	縫い目を細かくする。
	⑤押え圧が、合っていない。	17ページ参照
	＊特にうすい布を縫うときは、下側に紙をあてて縫ってください。	
布送りがうまくいかない。	①送り歯に糸くずがたまっている。	38～39ページ参照
	②縫い目が細かすぎる。	縫い目をあらくする。
	③送り歯があがっていない。	17ページ参照
	④押え圧が弱い。	17ページ参照
縫いずれがおこる。	①押え圧が、合っていない。	17ページ参照

調子が悪い場合	そ　の　原　因	直し方
縫い目に輪ができる。	①上糸調子が弱すぎる。 ②糸にくらべて針が太すぎるか、細すぎる。	14ページ参照 13ページ参照
ミシンがまわらない。	①コンセントに、プラグがきちんとさしこまれていないか、つなぎ方がまちがっている。 ②かまに、糸やごみがたまっている。	6ページ参照 37～39ページ参照
模様が整わない。	①送り調節ねじが合っていない。 ②指定の押えを使用していない。	32ページ参照 《ミシンのセット》参照
ボタン穴かがりがうまくいかない。	①布に対して、縫い目のあらさが合っていない。 ②伸縮性のある布のとき、伸びない芯地を使っていない。	24ページ参照 24ページ参照
音が高い。	①かまの部分に、糸くずが巻きこまれている。 ②送り歯に、ごみがたまっている。	37～39ページ参照 38～39ページ参照

●送りジョーズの使い方

送りジョーズは、上下の歯で布をはさみこみながら布送りをするので、薄物、ニット地、ビニールレザー、皮革などの素材に使用すると縫いずれや縫いじわを防止するのに効果があります。



①はずみ車をまわして針をあげ、押え上げをあげます。
②押えホルダー止めねじをゆるめて、押えホルダーをはずします。
③レバーが針止めにのるように、送りジョーズを向こう側から押え棒にとりつけ、押えホルダー止めねじでしっかりとしめます。

＊低速から中速くらいの速さでミシンを運転してください。

MEMO

お客様相談コーナー

★ジャノメミシンでは全国480近くの直営支店で万全のアフターサービスをしております。この手びきに書かれている方法で直らないときは、最寄りの支店へご連絡ください。
★お問合わせの際は、この手びきをお読みになりながらお電話くださると係員も故障の原因や個所がわかって便利です。

★アフターサービスについて、ご相談、ご要望がございましたら、本社お客様相談室または、下記の代表支店へ何なりとお申しつけください。

本社・お客様相談室　☎03(3277)2200
〒104 東京都中央区京橋3－1－1

札幌支店	〒060	☎011(261)5671 札幌市中央区南二条西2－11
仙台支店	〒980	☎022(221)3591 仙台市青葉区国分町3－5－32
新潟支店	〒950	☎025(241)8661 新潟市東大通り2－4－13
新宿支店	〒160	☎03(3341)6121 東京都新宿区新宿2－7－4
大宮支店	〒330	☎048(641)2975 大宮市下町1－6
千葉支店	〒280	☎0472(22)5121 千葉市富士見町1－14－11
横浜支店	〒231	☎045(251)8523 横浜市中区長者町5－71
名古屋支店	〒464	☎052(733)5116 名古屋市千種区内山3－33－14
静岡支店	〒420	☎0542(55)1328 静岡市紺屋町5－15
大阪支店	〒542	☎06 (213)1635 大阪市中央区心斎橋筋2-6-9
尼崎支店	〒660	☎06 (481)2193 尼崎市東難波5－7－20
広島支店	〒730	☎082(228)5181 広島市中区幟町15－9
高松支店	〒760	☎0878(31)1721 高松市瓦町2－10－14
福岡西新支店	〒814	☎092(846)7930 福岡市早良区西新2－6－1
熊本支店	〒860	☎096(354)6523 熊本市上通り町8－15

＊上記の電話番号および住所は、都合により変更することがありますのでご了承ください。

ジャノメミシン

東京都中央区京橋3-1-1 蛇の目ミシン工業㈱